

北アルプスのよりよい保護管理をめざして

神岡営林署 小田 謙 成
小田 勲
水本 達 男

1. はじめに

近年我が国の高度経済成長は、国民に物質文化を謳歌させ、同時に経済的余裕と余暇の増大をもたらした。反面極端な工業化と「開発」は生活環境の悪化をもたらし、そのため人々は自然の中に安らぎや、憩いの場を求めるようになった。こうして山岳レクリエーションの利用者は、ロープウェイ、山岳道路等交通手段の発達とあいまって急速に増大してきた。それは同時に観光登山者の増大としてあらわれ、このため高山植物が荒されることが多くなってきた。

檜、穂高連峰等の国立公園を管内にもつ神岡営林署では、国立公園が14,164haを占め、入山者は昭和52年度には実に37万の多きを数えている。このため営林署も山岳パトロールの実施、バッジ、パンフの配布、ポスターの掲示、“北アルプスこんにちは”の発刊、マスコミに対する協力要請、地元小学校に対する青空教室等を行ってきた。

その結果、以前に比べると、高山植物は荒されることが少なくなったけれども、依然として荒されているのが実態である。又今後ますます入山者が増大することが見込まれるが、現状では営林署の対応にも量的に限度がある。そこで今後の高山植物の保護管理はどうあるべきかを、従来と異なった側面から調査研究した。

2. 調査方法

- (1) 北アルプスについてのアンケートによる意識調査
 - ア 山小屋経営者等に対する詳細なアンケート調査
 - イ 栃尾、本郷、神岡地区の一般住民180余名に対するアンケート調査
- (2) 青空教室の評価についての聞き取り調査
- (3) お花畑を中心とした高山植物分布図の作成

3. 調査結果

- (1) 高山植物の分布図は、図-1の通りで双六岳付近のお花畑は、ミヤマキンバイ、クロユリ、ハクサンイチゲ、イワギキョウを主とする草本性の植物が優先するお花畑である。また西穂高岳と檜ヶ岳の間のようにガラ場などでは、コケモモ、イワウメ、イブキジャコウソウなど木本性の高山植物

が目立っている。

ところで今回の調査によると9割近い人が、北アルプスに登ったことがあると答えているが、印象に残った高山植物をたずねると、クロユリ、コマクサ、チングルマ、ハイマツと答える人が多数を占め、また最近、特にクロユリ、コマクサが少なくなったと指摘する人が多かった。

これを裏づけるように、高山植物が荒らされていると思うかという質問には全体の約7割の人が荒らされていると答えている。

これが山小屋関係者になると全て見たことがあり、その荒し方の内訳を次のように回答している。

ア 指定地外キャンプや休憩時の踏みつけ	42%
イ 写真撮影のためのお花畑への立入り	32%
ウ 高山植物の採取	13%
エ 登山道の未整備に起因するもの	13%

などとなっている。

- (2) 北アルプスに棲息する動物、鳥についてはよく保護されているが、高山蝶については、採集者が増加しており少なくなりつつある現実を指摘している。動物・鳥は保護の対象であることを知っているが、高山蝶の保護については知らない人が多いので、PRを積極的にやるべきと回答している。
- (3) ごみの問題にふれてみると、以前と比べて良くなってきているものの、依然として跡をたたないのが現実である。現在ごみの持ち帰り運動を他機関と併せ推進しているが、もっと強力にやるべきとの声が多い。

このような現実を裏づけるように、登山者のモラルの低さを嘆く声はあまりにも多い。

- (4) このような、北アルプスの痛々しい現実とは別に、この地域の人々は北アルプスをどのようなものと考えているのであろうか。今回の調査では表-1のような結果がでた。それによると地域の人々は、「郷土の誇り」「日本中でも唯一感激できるところ」「見ているだけで気の休まる場所」「自然にふれあう場所」であり、まさに「いつまでも荒されたくない」のである。

このように人々は北アルプスを「誇り」とし、その適正な保護管理を強く望んでいるのがわかる。

- (5) 現在、山小屋及び営林署はどのような保護活動を行っているのでしょうか。

まず、山小屋については、

- ア 登山者への口頭による注意
- イ 映画、パンフ等による啓蒙活動
- ウ 保護ポスターの掲示
- エ 巡視、が主な活動である。

また営林署では、

- ア 山岳パトロールの実施
- イ バッジの配布、ポスターの掲示

ウ 「北アルプスこんにちは」の発行

エ 青空教室の実施

オ マスコミに対する協力要請等を行っている。

アについては、住民の85%がパトロールを知っており、これをすばらしい活動だと認めたとうえで「もっと強化してほしい」と要請している。

山のらくがき帳でも「地味な活動だけど、がんばって!」という励ましも見受けられた。

ウについては、山のらくがき帳からピックアップしたものを編集したものだが、発刊と共に大きな反響を呼び、全国から70余通に及び激励をいただいた。いわく

「すばらしい企画」「書棚に置いておくのは惜しまれるのでいろいろな機会に、ほかの人達にも見せるつもり」というようなものから、「日本の最後の自然を護るためにがんばって!」「この本を読むと高山植物の保護をしなければ、という気持ちが更に大きくなった」「山を荒らす人に怒りを感じると共に少しでも役に立てるようお手伝いしたい」はては、「営林署の人を見直した」というものまであり、高山植物の保護のPRや、営林署のイメージアップに大きく貢献していることがわかる。そして続編の発行を望む声も多かった。

エについては一昨年の上宝村議会の「北アルプスの自然を守る宣言」を受けて、営林署が子供たちに、緑と人間のかかわりを正しく理解してもらうために、行ったものであるが、非常に好評と、また開いてほしいという要請があり、昨年再度行った。

対象は地元の小学6年生であるが、その内容は、山の名前、北アルプスの成因、高山植物の名前、高山植物の成因、なぜ保護しなければならないか、等を実際に高山に登り、教育するものである。

今回、青空教室についての感想を聞いたが、主として以下のようなものであった。

「山や高山植物についていろいろ学習できた」

「森林の働きや、北アルプスの植物についてわかった」

「山や森林を大事にしようと思った」

「日本中を緑でいっぱいになりたい」

「生きた学習であり、子供たちが自然に対する愛情を養った」

(6) 最後に地域住民、山小屋経営者等が、高山植物を保護するためには、どうしたらよいかという質問に回答しているので述べておこう。

ア モラルの高揚	40%
イ パトロールの強化	30%
ウ PRの強化	17%
エ 罰則の強化	7%
オ 学校教育等に反映させる。	3%
カ 入山規制	2%

キ 登山道を金網等でかこむ 1%

4. ま と め

今回意識調査を主体に、多くの人々から意見をいただき、研究を進めてきたわけであるが、では営林署としては、それらの中から何をくみ取り、そして今後どのような高山植物の保護活動を進めるべきなのだろうか。

我々はそれを以下の4点に集約した。

- (1) モラルの向上
 - (2) 監視体制の強化
 - (3) 登山道の整備（地方自治体の協力）
 - (4) お花畑の継続的調査
- (1)について

ア PR活動を更に強化する必要がある。

そのためには注意標識（看板）の設置、ポスターの掲示、及び掲示する場所のち密化、テレビ、新聞等のマスコミを積極的に活用すること、チラシ、バッジの配布を行い、更には大好評を博した“北アルプスこんにちは”の続編の発行も行って行きたい。

イ 自然愛護教育を学校教育の一環としてとりあげてもらう。

教育委員会、小学校に対して協力要請を行い、更には地元だけでなく、他の地域の学校にも広めて行きたい。

ウ 青空教室を更に充実する。

自然愛護の精神と情操豊かな人間性を養うための青空教室を地元小学校だけでなく、他の地域の小学校へと広め、更には北アルプスを訪れた人々を対象にした青空教室の開催も展望したい。そして地元では教室での内容を充実させることにより、山岳少年団の育成強化をはかりたい。

エ 高山植物園を設置する。

啓蒙活動の一環として、将来的に設置をめざしたい。

オ 美化の会の活用

高山の美観を損うばかりか、土壌を富、栄養化して、高山植物を衰退させるごみをなくすために、パトロールだけでなく美化の会の会員にも積極的な啓蒙活動を要請する。

(2)について

ア 単に営林署だけの山岳パトロールでなく、地方自治体等との合同パトロールをめざす。

イ 一般の観光登山者に対して十分な説明や、青空教室が実施できるようパトロール員の質的強化もはかる。そのためにパトロール員の研修等を積極的に行う。

- ウ 山小屋、ロープウエーからの高山植物の保護についての、より一層の協力を得る必要がある。
- エ このほかモニターへの委嘱も積極的にはかる。

(3)について

登山道の未整備が高山植物の荒らされる一因となっているので、これを早急に整備する必要がある。ただしそれは、営林署の業務の範囲をこえる分野でもあるので、県や村との意見の調整をはかる必要がある。

(4)について

今回、お花畑の位置と高山植物の種類についての分布図を作成したが、今後ともお花畑の位置と高山植物の種類、その豊富さについての経年的変化の調査を行い高山植物の保護のための資料としていきたい。

以上まとめたように高山植物を保護するためには「地味な活動」を質的に強化しながら、根気よく進めていくことが最善であると言えるのではないだろうか。

図一 高山植物分布図

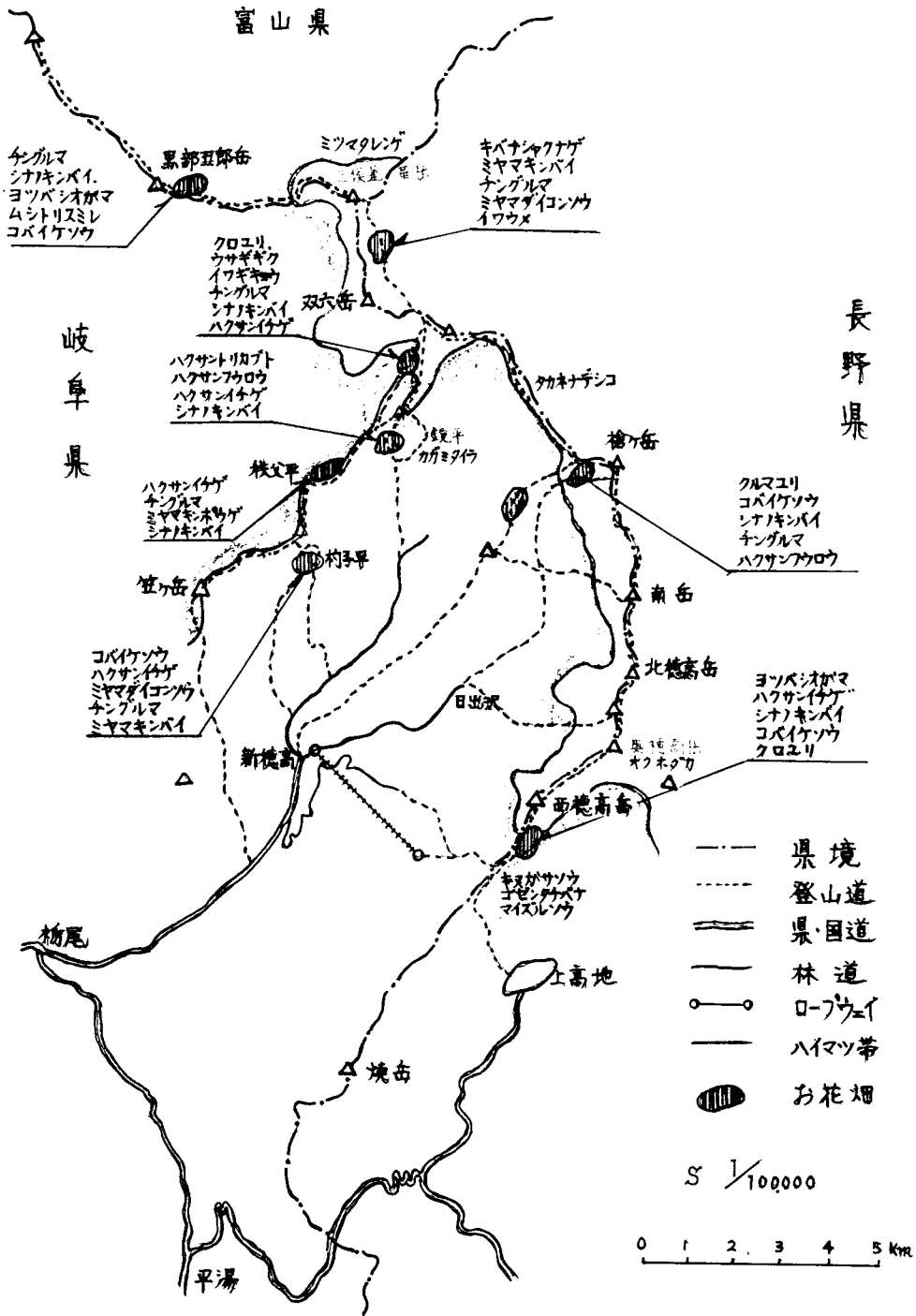


表-1 北アルプスについてのイメージ

